

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103656
法人名	有限会社 オフィスセントラル
事業所名	グループホーム あおば
訪問調査日	平成20年6月26日
評価確定日	平成20年7月25日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103656
法人名	有限会社 オフィスセントラル
事業所名	グループホーム あおば
所在地	鹿児島市東坂元2丁目31番3号 (電話) 099-248-5511
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年6月26日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥後クリニック 中央病院 宮ノ下歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市街地の高台にホームは建てられ、居室やリビングから錦港湾や桜島を望むことができる。近隣にはスーパーがあり、入居者と職員と一緒に買い物ができるなど、日常生活を楽しめる環境である。母体のクリニックを中心に、福祉施設や系列のグループホームと日頃から連携し、リハビリ訓練や趣味の書道・華道教室、化粧教室と多彩な行事が行われている。研修面においても、関連施設の管理者や職員が交代で作成した資料を使って、各施設で研修を実施するなど、法人全体として職員の資質向上に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、ホームとしての方針を定めて看取り指針及び同意書を作成しており、ご家族への説明と話し合いの場を設けている。すでに在宅訪問診療の契約者は3名となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	定例会において職員全員で話し合いを行い、評価の意義の理解や自己評価への取り組みを行っている。また前回の外部評価を活かして、改善計画シートを作成して具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、地域・施設・家族・行政の各代表を交えた運営推進会議が行われている。案内文で事前に知らせてある議案について活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。議案は、運営、介護、外部評価などさまざまな内容にわたっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2~3回の家族交流会や運営推進会議等において、ご家族等が意見、不満、苦情を表せる機会を設けており、何でも話せる雰囲気作りをしている。その内容を定例会等で検討して、運営に反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加しており、公園清掃や町内美化活動を行ったり、近くの幼稚園と年2回の交流をしている。また、小学生によるサマーボランティアの受け入れをしたり、民生委員や近所の方が気軽に声かけされるなど、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「入居者様の個性を生かし、地域の中で安心と幸せの施設を目指します。」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週の定例会で理念の共有を行っており、職員も理念を諳んじることができる。日々の実践では、理念のもと「自分の親ならどうするか・・・」という考えで行っている。また、理念は毎年見直しを行い、さらなる共有をめざしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加しており、公園清掃や町内美化活動を行ったり、近くの幼稚園と年2回の交流をしている。また、小学生によるサマーボランティアを受け入れたり、民生委員や近所の方が気軽に声かけされるなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定例会において職員全員で話し合いを行い、評価の意義の理解や自己評価への取り組みを行っている。また前回の外部評価を活かして、改善計画シートを作成して具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域・施設・家族・行政の各代表を交えた運営推進会議が行われている。案内文で事前に知らせた議案について活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎年、介護相談員の受け入れを行ったり、地域包括支援センター職員との交流を行い、市と行き来する機会をつくるとともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当者が状況報告や行事予定、職員の異動などについて、写真を添えて「あおば通信」を送付している。また、必要に応じて随時電話連絡をしている。金銭管理については、出納帳に記入してご家族の面会時に確認していただいたり、コピーを郵送したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2～3回の家族交流会や運営推進会議等において、ご家族等が意見、不満、苦情を表せる機会を設けており、何でも話せる雰囲気づくりに努めている。その内容を定例会等で検討して、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしており、離職する場合も徐々に出勤を減らしていく配慮をしている。また新しい職員については、入職前に業務の体験をしてもらい、入居者も徐々に馴染んでいくようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てており、法人内外の研修を受ける機会が確保されている。定例会では、普段の業務で疑問となったことについての勉強会も随時行われ、新人に対しては、1ヶ月間の新人研修が行われている。		今後さらなる取り組みとして、入職後半年や1年など、経験や立場、習熟度に応じた計画的な職員育成への取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人やその他のグループホームとの情報交換、在宅支援クリニックの医師等との交流など、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等を通じて、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得した上で利用するために、ご家族と一緒に見学する機会を設けたり、職員が事前に訪問して面談するなどの対応をしている。場合によっては、ご家族と一緒に泊って徐々に馴染めるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を介護される一方の立場におかず、つわのむき方等の料理に関することや色々な行事の風習など、一緒に過ごしながら学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活や趣味、嗜好などについて詳しいアセスメントを実施しており、普段の関わりにおいても、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らせるように、ご家族の要望を取り入れながら定例会等において職員と話し合い、その意向や課題が反映された介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は通常6ヶ月の期間であるが、毎月の定例会での検討内容や業務日誌等を参考にして、モニタリングによる介護計画の見直しを行っている。見直し以前に変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や日常的な買い物などの外出援助や、医療連携として複数の病院との連携、ご家族の宿泊・食事希望への対応など、必要に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の意向に応じて、納得が得られた医療機関に受診できるように体制を整えている。入居以前のかかりつけ医に対する受診希望にも、柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における看取り指針」および「同意書」を作成し、関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や失禁等による衣服汚染に対して、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮がなされている。個人情報等の記録物は職員詰所で管理しており、秘密保持を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常の流れは決まっているが、職員側の決まりや都合を優先することなく、入居者の意思を尊重している。起床・就寝時間や食事、入浴など、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を尊重して、前日の献立と重ならないようにその日の希望に沿った献立を取り入れている。入居者は、できる範囲で職員と一緒に買い物や食材の準備、後片付けなどを行っている。湯飲みやお箸、茶碗なども個人のものが使われ、職員と入居者が同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調や状態に合わせて、随時入浴できるように支援している。気の合う入居者同士で入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道・華道・化粧・カラオケ・踊り教室など、さまざまな楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。野菜づくりやお手玉づくりなど、一人ひとりの生活歴に応じて、職員と共に楽しんでいただけるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って、ほぼ毎日外出している。受診で外出する際、他の入居者も便乗して一緒に出かけることもある。ドライブのコースは固定しておらず、様々な場所に出かけるようにしている。職員と一緒に、近くのスーパーに買い物に出かけることも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していない。運営者及び全ての職員が、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、セキュリティ会社および消防署と協力して、夜間想定を含めた避難訓練を、入居者も参加して実施している。近所の方々に協力を得られるように働きかけたり、関連施設との連携協力体制を密にするよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者全員の食事摂取量や水分摂取量が記録されており、栄養バランスについては月1回、管理栄養士より指導を受けている。食事形態についても、それぞれの状態に応じて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や花が飾られ、ゆったりできるソファや畳のスペースが設置されており、入居者はくつろいだ様子で居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや仏壇、タンスなど、馴染みの家具や好みのものが多数持ち込まれており、それらを活かして居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		